BONJOUR! DU BURKINAFASO

VOL.8 2014.5.30

みなさん、こんにちは。4月は雨もなく酷暑が続き、サウナ状態の部屋では寝ることができずに外で寝ていましたが、5月に入りようやく雨が降り始めました！
しかしながら、雨期の手前。乾期の最後である今は、これまでの作物のストックが尽きてか市場の野菜がかなり少ない状況。改めて人の生活と自然は直結しているなと感じています。

Quoi de neuf?▶▶▶ブルキナファソ初？の”アースデイ”がスタート！

普段、活動の支援を行ったり、共同で活動を行ったりしている環境団体「Association Téng-Yilgré」が、4/21〜27の1週間、クーペラ市民への環境意識啓発を目的とした環境週間を実施しました。このような長期の環境イベントはクーペラ初。4/22は世界で定められている“アースデイ（地球について考える日)”だよと紹介すると、「よし、アースデイをクーペラに根付かせよう！」と意気込んでくれました。まだまだ自治体としても環境対策に対する意識が高いとは言いがたいこの街でイベントを行うのは大変なことのほうが多かったようですが、これを初回として進化させながら毎年継続し、市民の間で根付いていってくれたら、この街も変わる気がします。ちなみにプログラムは以下のとおり。
◎4/21〜23: 家庭巡回型啓発・プラスチックゴミ拾い　◎4/24：ラジオ啓発　◎4/26：自転車レース、環境によいもの展示会（ビニール袋リサイクル商品、改良かまど、石けん）、会議(プラスチックゴミの影響について)　◎4/27：バザー

3日間で回収したプラスチックゴミの山。

自転車レースに臨むマダムたち。
市民も応援に熱がはいっていた。

普段の活動の様子（街のプラスチックゴミ拾い）

自転車レース表彰式。私からも授与させてもらいました。

環境教育授業の一環で市内の小学5年生に描いてもらった絵（テーマ：地球環境）を展示。

普段の活動の様子（プラスチックを用いた籠づくり）

“ASSOCIATION”の定義って？

ブルキナファソではAssociation（非営利団体。特に女性団体）が多く存在し、私の県でも200以上の団体が存在します。女性のエンパワーメントなど、国際協力事業では女性団体の結成が注目される傾向にありますが、女性たちが共同で働く、ということは外国の援助なしでも元々根付いているようです。どうしてこんなにもAssociationに加入する人が多いのでしょうか。

Associationはブルキナファソ独立時からブルキナベ自身で結成・継続し増えてきました。日本では非営利団体＝社会貢献、公共福祉という印象が強いように思いますが、ここではAssociationで何かを製作したり働いたりすることで小額の収入を得、女性たちの貧困防止につなげるという役目が大きいです。というのも、ブルキナファソでは水・薪の確保や洗濯・料理などの家事にかなりの時間がかかるため、多くの女性が教育を受けられず、文字の読み書きができないなどの理由により、51.7%の女性が貧困状態にあると言われています。彼女らが家事の合間の復職として何かを行おうとしてもその材料を買うお金もなかったりするのです。

そこで、Associationに入ることで、一時的に材料費をもらえたり、政府から支援を受けられたりすることが、彼女たちがAssociationに加入する一番のモチベーションになってます。ですから、シアバター石けんやスンバラ（調味料）、伝統の織物などを製作し販売して現金収入につなげているAssociationが多いのです。仕事がなく貧困に直面する女性たちにとって、少なくても現金収入を得られる機会がAssociationの活動なのです。

もちろんAssociationの目的が利益を得ることであれば、その定義（＝Action communautaire pour tout le monde non lucratifすべての人のための非営利共同活動）に反しますから、市民に還元される活動でなければいけません。しかし実際は、同時に団員である女性たちの生活を助ける大きな存在であるため活発に活動が行われている。

公共事業予算の限られたこの国で社会貢献活動を継続するには、必要なモチベーションなのかもしれません。

【情報提供：女性の地位向上省クリテンガ県局 Ouedraogo Salam氏】

Qu'est-ce que c'est? ▶▶▶篠原隊員に聞くブルキナファソの保健医療事情

ブルキナファソにおいて、保健医療分野は政府が最も重視する分野の一つ。乳児死亡率は1000人中約78人（日本は約2人）。早期治療を行えば治るマラリアや髄膜炎等の感染症でも命を落とす人も少なくなく、多くの国が保健・衛生分野の支援を行っています。今回、同任地最大の病院で看護師隊員として約2年間活動してきた篠原隊員が、ブルキナファソの保健事情について教えてくれました。

Q1．配属病院にはどんな部署がありますか。また、篠原隊員はどの部署で活動していますか？

内科、外科、小児科（CREN:栄養改善教育センター）、耳鼻科、眼科、精神科、産婦人科、OP（オペ）科の８つ。わたしはCRENで活動しています。

活動先であるCREN

体温測定の様子
（右：篠原隊員）

Q2．ブルキナファソではどんな病気にかかる人が多いですか？また、治療費はかかるのでしょうか？

乾期は砂ぼこりによる呼吸器疾患（気管支炎や肺炎など）、雨期はハマダラカの発生によるマラリア、消化器疾患（胃腸炎、下痢など）が多いです。診察代は無料ですが治療費（点滴、消毒液、手袋、注射器などの必要な道具・薬代）は有料です。入院費はCRENでは1日200FCFA（40円弱）ほどです。

体重測定の様子
（左：篠原隊員）

Q3．篠原隊員は日本でも看護師として働かれていましたが、ブルキナファソの病院に来て驚いたことは何ですか？

そもそもの“看護”の定義・考え方が違うことに驚きました。ここでは日本で医師が行う仕事（診察・カルテ記入・治療決定＆施行など）を看護師が行います。看護師が患者の身の回りの援助をするという考えはなく、それらは患者の付き添い者が行います。医師は、手術および手術後の患者さんや重症患者さんの診察などを行います。
また、入院患者のプライバシー保護がないことも驚きました。

Q4．ブルキナファソの医療の課題を教えてください。

お金がないという理由で診察に来れない人が多く、とくに病院から遠く収入も少ない村人たちの医療へのアクセスが改善されるようなシステム作りが必要だと感じています。
適切な時期に適切な治療介入を平等に行えることを願うばかりです。

Q5．篠原隊員の主な活動内容を教えてください。

○看護の質の改善：
患者さんが早期に隊員できるよう、診察・観察の方法の改善提案、環境整備を行っています。
○５S改善活動：
整理・整とん・清掃・清潔・しつけ（５S）の徹底が正確安全な医療に繋がります。その基礎を伝え、行動に結びつけられるよう働きかけています。

Q6．最後に２年間の活動を通してのやりがい、苦労したことなど教えてください。

CRENに来る子どもは初めは見るのもかわいそうなほどの身体です。しかし、子どもの持つ力・付き添い者の援助・看護師の働きでどんどん回復していきます。時には各人の意識の弱さが重なり大変な状況にもなりますが、回復したときの子どもの元気な姿を見、一緒に喜び合えることが一番嬉しい瞬間でした。
子どもの笑顔、付き添い者の喜びは本当に素敵です。

環境教育を行った、村の小さな小学校。
みんな元気いっぱいに手をあげ、“またね〜！”。笑顔満開。

クイズ du Burkina

Q. ブルキナファソの地方では、多くの人がカーズと呼ばれる伝統的な住居で暮らしています。（写真右）
このカーズ、屋根は藁葺きですが、茶色の壁は何を原料にして作られているでしょうか。
○の中に入る文字は？

A.　○○○○の巣　と　○○の糞　を混ぜたもの

※コンクリートが高くて買えないのでこれを使います。
※同じ原料を塀にも使っています。わたしもこの原料で改良かまどを作って普及活動を行っています。

Ensuite?▶▶▶学校の様子について、制服特集など

A.　シロアリの巣　と　ウシの糞　を水と一緒に混ぜ、粘土状にしてから塗って行きます。その後水分を蒸発させ固めると丈夫な壁になります。（現地にはいたるところにシロアリの巣がある。また、家畜として家を飼っている家が多いので、この2つは容易に手に入る。しかもタダ。）
ちなみにウシの糞は使えるが、ロバや豚の糞は使用不可。